

＜他集落との連携に取り組む事例＞

○地域の实情に即した持続的な農業生産活動の体制整備

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県東広島市安芸津町・大芝東			
協定面積 ha	田 (0%) 0	畑 26.9	草地 0	採草放牧地 0
交付金額 347万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員報酬		4%
		堆きゆう肥購入費		40%
		水路・農道等の維持管理出役手当等		34%
		研修費		18%
		その他		4%
協定参加者	農業者 42人			開始：平成23年度
人・農地プランの作成状況	なし			

2. 取組に至る経緯

東広島市の安芸津支所管内の 16 協定が参加する、安芸津町集落協定組合連絡協議会の H25. 4. 16 の総会で、支所の担当者が、集落連携促進加算について説明したところ、予てより、周辺集落の中に、中山間地域等直接支払事業への参加を希望するものの、所属集落内に、この事業を遂行するための世話人がいないため、参加を断念した人がいることを耳にしていた大芝東集落の代表者が、本事業の支払事務や市への提出物の作成事務等を引き受けることを伝えながら、精力的に参加希望者と協定農用地を募って取りまとめ、集落連携促進加算の取組を開始した。

3. 取組の内容

地域の活性化を担う人材の受け入れ活動を開始するため、受入体制の役割分担として、生活情報の教示を各集落の区長に、営農情報の教示を協定の役員にお願いし、農区長からの貸出可能な住宅と農地の情報を協定代表者が整理し、H25 年 8 月にチラシを作り、区長や役員や協定参加者に配布し、募集・勧誘活動を実施した。その結果、H25 年 9 月に、大芝東集落内の空き家に地域の活性化を担う人材を市外から 1 名受け入れた。

新たに連携した集落とは、堆肥等の共同購入による取得単価の低減を図るとともに、直売施設への出荷ができるよう仲介して、直売施設の品揃えを充実し、集客力の向上と販売額の増加を図った。また、営農情報等を交換して農作業効率の改善や、堆肥の施肥による農産物の品質の向上等を図った。

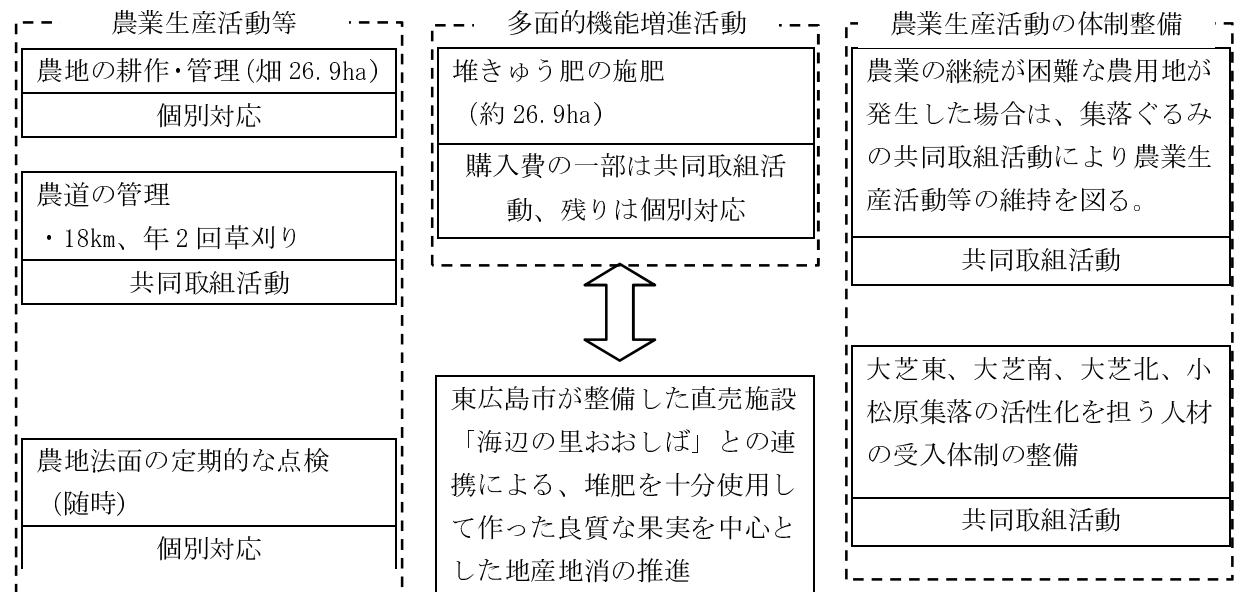


【集落の将来像】

○ 集落ぐるみの農業生産活動等の体制整備を通じ、地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制を整備する

【将来像を実現するための活動目標】

○ 協定農用地の農業生産活動を継続するために、集落の合意に基づき、共同で支え合う仕組みを事前に取り決め、全協定農用地を維持する。また、直売施設に農産物を出荷し、地産地消を推進する。



集落外との連携

- 堆肥や資材等の調達を共同で行い、大量購入することで、取得単価の低減を図る。
- 大芝島の直売施設に出荷してもらい、従来よりも農産物の品揃えを充実し、集客力の向上や売上額の増加による販売経費率の低減等、相乗効果を図る。
- 営農情報等を交換し、作業効率や品質の向上等を図る。

4. 今後の課題等

本協定の農用地は、全て畑で、そのほとんどが、傾斜 15 度前後の柑橘中心の果樹園である。柑橘の栽培には、防除や夏場の渇水対策等が不可欠で、平場の作業に比べ非常に厳しいものになっている。また、収穫は、一つずつ手もぎでコンテナに入れ、索道で運ぶなど、水稻の急傾斜地での栽培以上に手間や経費がかかっているが、交付単価は田に比べてかなり低く、また、5年間の縛りがあるため、高齢者ほど、本事業への取組意欲が低下している。

定年帰農者や新規就農希望者等の圃場の下見も散見するが、従来の索道方式では、防除や収穫等の作業効率が低く、収益性は上がらない。このため、担い手の確保が困難で、定年帰農者も不足している。

簡易な作業道の設置について、圃場整備事業の対象に中山間の協定も対象にしていたら、協定内で話し合っって作業性を高める作業道を設置することで、共同機械による防除等により生産効率を上げ、食べていける柑橘栽培が可能になって、後継者問題に解決の道が開けるものと思う。